



# 華氏マイナス320°

NODA・MAP 第28回公演

華氏マイナス320°

作・演出 野田秀樹

## SPECIAL Interview 広瀬すず Vol.②

### 舞台の醍醐味は「<sup>なまもの</sup>生物」であること ——身体の中にずっと残る感覚がある

毎回、事前情報をほぼ公表せず、足を運んだ観客にサプライズを届けるNODA・MAP。内容に関しては舞台を観るまで謎のベールに包まれているが、インタビューの後半では、作品に挑む思いそして最新作で演じる役柄についても、少し踏み込んで教えてくれた。

文：川添史子 撮影：野坂茉莉絵 ヘアメイク：永瀬多幸 スタ일리スト：丸山晃

—— 歴史や社会に連なる物語と驚くような方法で接続するNODA・MAP作品。演技手としては、どのようにテーマを昇華されていますか。

観る側も演じる側も、覚悟のいるストーリーが多いですね。どうやっても精神的には削られていく感覚があります。しかも長い公演期間の中で何十回も繰り返していくと、前半よりも何十倍も感情が重くなるんですよ。私自身沈んでいってしまうタイプなので、そこをまた上げて、翌日の登場場面では新鮮さを取り戻すのがとても大変というか、初舞台の時は苦労しました。野田さんの作品は一つの世界からまた別の世界にジャンプする飛躍力も必要とされるので、その繋ぎ目をどう表現していくかにも悩みますし。ただ、とにかく素晴らしい座組みの皆さんを真似しながら吸収してみたり、野田さんのアドバイスのままに身体を動かしてみたりと、稽古場に行ったらいつの間にか解決するんです。

—— そして今回のご出演について、現時点ではどんなことを感じていますか。

オファーをいただいた瞬間「絶対にやりたいです!」と即答するぐらい、再びNODA・MAPの世界に飛び込める嬉しさがあります。映像のお仕事は、リハーサルして、テストして、監督とお話をしながら方向性を決めて……とじんわりじりじり積み上げていく感覚。でも舞台はずっと全速力で走っていくような感じというか、アドレナリンが出るというか、体温が上昇するような感覚があります。みなさんきっと驚いたと思うのですが、私『Q』: A Night At The Kabuki(以下Q)のスタンバイ

時、舞台袖でジョギングしていたんです(笑)。私にとって舞台は、映像とは別の筋力を使う場所。感情と同じぐらい身体を使う場所なんです。

—— 今回の共演者、阿部サダヲさん、深津絵里さんとのご共演についてはいかがでしょう。

阿部さんとはドラマで一緒した以来(2018年放映『anone』)なんです。家族のように仲のいい現場だったので、そこからの信頼感は大きいです。当時まだ10代でしたから、久しぶりに共演できるのがとにかく楽しみで。深津さんとは初めてになります。NODA・MAP『贋作 桜の森の満開の下』(2018年)が舞台で深津さんを観た最初で、今でも台詞を喋っている光景が思い出せるぐらい衝撃を受けました。こうして同じ舞台に立てることが光栄です。

—— 野田さんから、今回の役柄について何か聞いていることはありますか？

『Q』の時とは対極にあるような役……「ファウストを惑わす悪魔メフィストフェレスのような

役をさせたいと思っている」とおっしゃっていました。数日前に台本をいただいたばかりなので、まだ具体的にお話できるような解釈はできていないのですが、今回も素晴らしい共演者の皆さんが揃う中で「どう存在すればいいんだろう?」と、楽しく迷いながら演じられたらと考えています。

—— NODA・MAP作品では高校生チケット、北九州芸術劇場では10代対象の割引チケットなど、若い世代が舞台に触れる取組を行っています。最後に若い方へのメッセージをいただけますか？

やはり「<sup>なまもの</sup>生物である」ことが舞台の醍醐味だと感じます。学生時代に何度か舞台を観にいった経験もありますが、意味やテーマを全部理解するというよりも、目の前で観た景色や、作品から受けたインパクト、手触りみたいなものがずっと身体の中に残っていた感覚がありましたから。劇場に足を運んでいただき、感覚を研ぎ澄まし、さまざまなことを感じていただけたら嬉しいです。

## Information

NODA・MAP 第28回公演「華氏マイナス320°」

6月6日(土)～14日(日)

J:COM北九州芸術劇場 大ホール

[作・演出]野田秀樹

[出演]阿部サダヲ・広瀬すず・深津絵里

大倉孝二・高田聖子・川上友里・橋本さとし・野田秀樹・橋爪功

公演情報詳細はこちら



当日券全公演販売

4月19日(日) 10時 高校生割引シート発売開始!